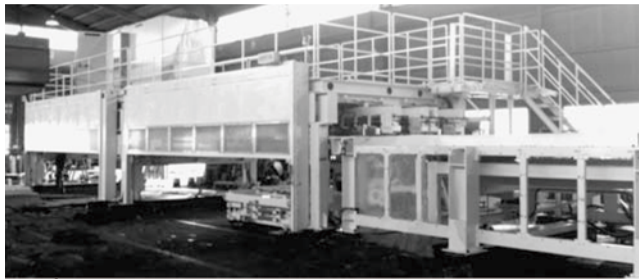


山信金属工業

山信金属工業（東京都港区）は、搬送ラインなどに用いるマグネット応用機器のメーカーとして55年の歴史を誇る。創業者の山田参市氏がマグネットの用途に注目して開発したのがスタート。3代目に就任した山田洋社長は「1970年代に大手自動車メーカーに提案したことを機に、今では国内外の主な自動車メーカーの生産拠点で採用されている。この分野の先駆者として信頼関係を築いてきた」と自負する。

マグネットレールやシートセパレーターなどのマグネット応用機器は、磁石の



顧客の改善ニーズ反映

磁力を利用して鉄素材の搬送物の固定・分離・選別などに用いる。自動車・鉄鋼・製缶などのラインに欠かせない機器だ。「ほとんどが顧客別にカスタマイズする受注生産。社内で設計・開発し、川口市の埼玉工場や協力工場で組み立てて、調整する。常に顧客から改善のニーズを聞いて開発に反映させている」と強調する。営業部門も迅速できめ細かいアフターサービスを徹底。「いくつかの業種を扱っているため、悩みに対して意外な解決策を提案できることもある」と胸を張る。

永久磁石を使った製品のほか、電磁石による高機能品にも力を入れている。「遠隔操作や力の強弱をつけたい場合に電磁石が役立つ。最近は省エネ化や二酸化炭素（CO₂）削減の観点から、電気製品をマグネット機器に置き換える需要も伸びている」と分析。その上で、「アルミ材や樹脂といった鉄以外のワークへの対応力を向上する。ブローアーク吸着といった新技術も強化する。マグネット機器だけではなく、搬送ライン全体に貢献する企業として成長したい」と意気込んでいる。

自社開発のマグネットパイラー